

# JAPANESE TEACHERS ASSOCIATION OF TEXAS

## テキサス日本語教師会 ニュースレター

<http://www.jtat.org/>

### 1. 会長あいさつ「新学年の年頭にあたって」

長い夏休みも終わり、既に 2012-2013 の新学年に突入してすでにひと月以上が過ぎようとしている先生方も多いことと思います。お元気でお過ごしでしょうか。

先生方におかれましては、昨年より大きな環境の変化を遂げられた方、昨年に引き続き順調な環境で教鞭をとられている先生方など、様々な状況で新しい年度を迎えていらっしゃると思います。各学校や学区、地域やプログラムの規模等により日本語の教育状況は大きく異なると思いますが、学生が日本語や日本の文化を楽しんで学習を続けていけるような大きな目標を掲げ、これからも先生方と連携をとりながら日本語教育のアーティキュレーション(連関)を図り、質の向上を目指していきたいと考えてます。また、様々な活動や手法を模索・実践し、教師会としての成長にも反映していきたいと思えます。

この八月に日本語教育国際研究大会 (International Conference on Japanese Language Education) 名古屋 2012 が名古屋大学で行われました。私事になりますが他大学の二人の先生と共に発表し、参加してまいりました。今年はこの大会の主催機関である(社)日本語教育学会の創立 50 周年という記念の年で、1,500 名を超える日本語教育関係者が世界中から集まり、外国語としての日本語や第二言語としての日本語に関する様々な講演、シンポジウム、発表、交流会、さらに多文化映画祭など盛りだくさんのイベントで大盛況のうちに開催、閉幕されました。このような日本語のみの教育学会に参加するのは初めてで、素晴らしいエネルギーにあふれていて、ネットワークの機会にも恵まれました。世界では、今 130 以上の国や地域で 400 万人を超える子供や大人が日本語を学んでいる、と大会プログラムにありました。大会の情報がウェブサイトよりいくつか閲覧できますので、ぜひご覧下さい。プログラムの発表一覧もありますので、題名が今後の研究のインスピレーションにつながるかもしれませんね。また、ドナルド・キーン先生の大会記念インタビューの動画も6つのトピックで見られます。キーン先生の日本語と共に歩んだ70年のコンテンツを聞き取り教材として活かしてみるのもいかがでしょうか。

<http://www.nkg.or.jp/icjle2012/plenarytalk.html>

最後になりますが、先生方の新学年度の展望や計画などぜひ教師会宛にお知らせ下さるようお願いいたします。秋の定例総会も、オースティンの TFLA にて10月12日に

### 目次 INSIDE THIS ISSUE

1. 「新学年の念頭にあたって」 JTAT President 竹内弥生 (University of North Texas) 1
2. 「TFLA Fall Conference へのお誘い」 JTAT Secretary 藤井佳子 (Baylor University) 1
3. 「メンバーシップ更新のお願いと新メンバーのご紹介」 JTAT Treasurer リード真澄 (The Woodlands H.S.) 2
4. 「Pacific AP Institute」 JTAT Vice President David Shimizu (LASA, Austin ISD) 2
5. 「夏期日本語プログラム実施報告」川邊裕子、竹内弥生 2-3
6. 「日本語スピーチコンテスト地方大会を振り返って」川邊裕子 3
7. 「Princeton Japanese Pedagogy Forum に参加して」藤井佳子 3

行われます。新役員の選挙や、スピーチコンテストに関するお知らせ等、活動が本格的に開始するこの時期、より多くの先生方にお目にかかり、お話しできるのが本当に楽しみです。定例会後の交流会へのご案内も間もなく始まりますので、そちらも併せてぜひご参加下さるようお願いいたします。

2012~2013 年の皆様の素晴らしい発展と発見の毎日願っています。

2012年9月

JTA 会長 竹内弥生

### 2. TFLA カンファレンスへのお誘い

**TFLA Fall Conference Oct. 12-13**  
@ Austin Renaissance Hotel,  
**JTAT General Meeting /定例会**  
10/12 (金) 10:15-11:30AM

日本語に関連した発表が金曜日に3つあります。  
<プログラム> <http://www.tfla.info/conferences/>

金曜日夕方 JTAT の懇親会を予定しています。  
たくさんの方のご出席をお待ちしています。

Please RSVP to [Yoshiko.Gaines@Baylor.edu](mailto:Yoshiko.Gaines@Baylor.edu).

TFLA ランチョンが金、土曜日に参加して、日本語の存在感をアピールしましょう！今回土曜日のアワードランチョンではベイラー大学のプレフューメ裕子先生が表彰されますので、ご都合のよい方はぜひ応援に行ってください。

JTAT Secretary 藤井佳子

### 3. メンバーシップ更新のお願いと新メンバー紹介

今年の会費納入についてですが、皆様ご存知の通り、直接 AATJ にお支払い下さい。2013 年一年間の会費として \$ 40、ジャーナルをご希望の方は \$45 です。以下のリンクから更新、会費納入ができます。  
<http://www.aatj.org/membership/index.html>

出来れば **12 月 1 日**までに更新の手続きをお済ませ下さい。尚、JTAT のみのメンバーシップ更新をご希望の方は、\$ 15 の小切手を私までご郵送ください。

As you are aware, you will need to renew JTAT membership by renewing your AATJ membership through the following link. The membership fee is \$40, and if you would like to receive AATJ Journal, it is \$45. Please renew your 2013 membership by December 1 of this year. If you are interested in renewing JTAT membership only, please send a check for \$15 made out to JTAT by December 1. If you have any questions, please e-mail me at [masumi.reade@gmail.com](mailto:masumi.reade@gmail.com).

再入会いただいた方以外に、以下の方が新しくご入会くださいました。ありがとうございます。(敬称略)

The following teachers joined JTAT this year.  
Welcome!

Jessica Allain , Sachiko Fukushima(Cinco Ranch High School, Katy ISD), Heather Lorenz (Houston), Aoi Saito (Texas Tech University), Yoko Tuel (Oklahoma), Rey Scott (Clements High School, Fort Bend ISD), Eiko Kobayashi (Austin College), Satako Neese (Richardson ISD), Tomoe Sato (University of North Texas), Rebecca Taylor (University of North Texas)

JTAT 会計 リード真澄

### 4. Pacific AP Institute

The Pacific AP Institute held its annual AP seminar in Monterey, California from June 6<sup>th</sup> through the 29<sup>th</sup>. The Japanese seminar was taught by Yo Azama, a teacher at Salinas High School and the 2012 ACTFL National Language Teacher of the Year winner. The seminar focused on backwards design for AP Japanese. The hands-on nature of the workshop provided participants with theoretical understanding and a practical template for designing and implementing a backward design lesson.

David Shimizu, LASA, Austin ISD

### 5. 夏期日本語プログラム実施報告

#### Study Abroad Japan 2012

サンアントニオ・カレッジにおいて学生たちを日本に引率するのは今回で3回目になりました。キャンパスで2週間の集中講義の後、2週間日本旅行、そして1週間学校に戻って勉強という5週間のプログラムです。今年は14名の学生が参加し、とてもにぎやかな旅行となりました。日本初日に浅草で日本テレビの Zip という番組に学生たちが全員インタビューされ、楽しく旅行が始まりました。大江戸博物館ではガイドさんに説明をしていただいて、私にとっても勉強になりました。京都では University of North Texas の一行と同じユースに泊まりました。他にもミズーリ大学、ワシントン大学のグループとも一緒になり、夜は学生たちが楽しそうに交流していました。梅雨で雨が多かったにもかかわらず、予定の行事と観光をすべて終えることができました。Study Abroad プログラムの引率は気苦勞も多々ありますが、日本人として学生たちの貴重な体験と一緒に味わい日本を直接紹介できるのは、日本語教師の特権でもあります。毎年違ったアクシデントが起こりますが、それもよい経験です。来年は5月に出発する予定で考えております。

サンアントニオ・カレッジ 川邊裕子

#### 2012 年夏の2年生短期留学コースを振り返って

2009 年より毎年夏の留学コースを指導し、今年4回目のコースが無事に終了し、お世話になった方々やがんばった学生に感謝の念、ひとしおの気持ちです。今年のコースでは日本へ向かう前のインターネットでのリサーチ活動に力を入れ、また日本のホストファミリーとのあいさつのやり取りも含め、留学前後の学習連携や交流を具体的にを行うことで、目的意識の高い活動の実現を目指しました。

このコースは5月からの計 7 週間で大学2年生一年分の履修します。前半 3.5 週間は大学キャンパスで学習、6月からの後半 3.5 週間を日本への超短期留学という形で行います。東京、名古屋、京都/奈良、広島を巡り、青少年センターやユースホステルや旅館での滞在と移動、そして限られた WiFi 環境という不自由な状況もかかえながらも、目新しくワクワクする日本での毎日で計7週間のハードワークをこなします。教科書の学習のみならず、団体生活という要素も濃いので、いかにクラスメートと協調しお互いから学び、さらに日本での様々な人との交流を通して成長するかもこのコースの目標と評価のひとつとしています。

昨年のコースより、期間中 3-4 日のホームステイも実現しました。短くても家庭のなかに迎えられ、日本の家族と過ごす時間は学生もほっとするひとときです。ホームステイ後には、お礼の絵はがきを送ったり、また Facebook でもつながったり、留学時だけにとどまらない交流を続けて<続く>

います。日本の市町村や各地の国際交流協会は、私達のような大学生や高校生グループの日本滞在のサポートを積極的におこなって下さい。教員一人で行うコースでは、交換留学校や、姉妹都市、先生の個人的繋がりから発展して交流に繋がるケースなど様々な形で支援を得て、学生が人々と出会う機会をより多く作っていくことが大切になります。市町村の団体は緊急時の相談窓口としての役割も果たして下さるので大変心強いです。こういったお世話になったお礼に、将来は日本から訪問される方々へのサポートに学生共々まわることができたらうれしいと考えています。また、来年度のコース案として、被災地でのボランティアなどサービスラーニングの要素も取り入れ、日本での活動を一步進めたデザインで計画しています。

留学コースは、思いがけないけがや病気に見舞われるケースもあり、一人での実施にはエネルギーがいりますが、学生のうれしそうな顔を見たり、たった 3.5 週間の日本滞在中のなかでも成長する姿を見ると、大変でもまた来年も改善しながらがんばってみようという意欲がわきます。日本の滞在中には、他の教育団体の先生方や学生との出会いもあり、学生と共に教員も学べるという幸運に恵まれたりします。日本での生活体験や多世代の普通の人々との交流が、学生にとってこれからも日本語学習を続ける励みになり、ひきつづき日本ファンとして後輩の学生達にもその輪を広げる役目を担ってくれればと願っています。

ノーステキサス大学 竹内弥生

## 6. 日本語スピーチコンテストを振り返って

サンアントニオでは2008年にサンアントニオ日米協会が中心となり日本語の先生方へ協力をお願いする形で地方大会が始まりました。最初の年は16人の小学生も詩の暗誦に加わり5つのカテゴリーに40人ほどが参加しました。二回目からサンアントニオ日米協会と先生方が一緒になって企画運営をするようになり、五回目には68名が参加しました。過去二、三年で高校生の参加数が増えたのは加藤先生、バリテ先生をはじめとする高校の先生方のコンテストに対する熱意によるものです。今年の大会では、ジョンソン高校のダンスチームや歌などが楽しさもそえ、内容的に充実したコンテストになりました。来年からコンテストの企画運営に East Asian Institute in the University of Texas at San Antonio が加わることになり、皆でよりよいコンテストを目指し頑張っていくつもりです。

サンアントニオ・カレッジ 川邊裕子

## 7. Princeton Japanese Pedagogy Forum

牧野成一先生の退官記念である今年の Princeton Japanese Pedagogy Forum は "New Horizons in Japanese Language Education" という大会テーマのもと、多くの発表者が参加し盛大に行われました。

ウィスコンシン大学マディソン校のマグロイン先生が司会をなさった「ラウンドテーブル1 日本語教育と言語学・文化学」では、ハーバード大学のヤコブセン先生が目に見えない項構造を教えることの重要性について、牧野先生はくり返しのもつ相互作用としての本質的機能について、ミシガン大学の岡先生がメタファー活用の可能性と有用性について、そしてスタンフォード大学の松本先生がアイデンティティ表現の観点からの多様性の認識についてそれぞれお話しになりました。また、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作先生も、社会活動の場としての外国語教室というアプローチと、その場合文化リテラシーとは何かいかに評価するかなどを発表されました。これらの点は、もう少し意識して日々の授業に取り組みたいと感じさせられました。「ラウンドテーブル2 日本語教育と第二言語習得・教授法」では広島大学の畑佐由紀子先生がコミュニカティブ活動の活用と補足について発表されましたが、南山大学の坂本先生が唱えられた明示的指導と暗示的指導の必要性和通じる内容で、言語の多様性のみならず、教え方の多様性も必要とされていると再認識させられました。このラウンドテーブルではミシガン州立大学の遠藤先生が日本語能力試験 N2 準備講座の具体的な実施内容を紹介してくださり、大変参考になりました。

プリンストン大学の佐藤先生とスミスカレッジの熊谷先生が発表された「社会参加を目指す日本語教育: その理論と実践」では、「社会に関わろうプロジェクト」という実践例が紹介されました。学生が興味のある社会問題について批判的に考察し、具体的な提案をあげ実行することを目標に取り組んだそうです。また、コロラド大学ボルダー校の清水先生と筑波大学の酒井先生が SPOT (Simplified Performance-Oriented Test) の WEB 版を紹介下さいました。プレイスメントテストとして妥当性があるとされるこのテストが WEB 上で受験できるのは、他の日本語プログラムにとっても魅力的ではないでしょうか。閉会式では牧野先生の長年の日本語教育への貢献がたたえられ、ACTFL や AATJ の代表の方もお祝いに駆けつけていました。

ご興味のある方は、ぜひ Princeton Japanese Pedagogy Forum のウェブサイトでお覧ください。今年の Proceedings は後ほどアップロードされるものと思います。( <http://www.princeton.edu/pjpf/index.xml> )

バイラー大学 藤井佳子





2012年夏のワークショップ カリフォルニア州立大学サクラメント校の増山和恵先生をかこんで

---

**Call for Articles for the next issue of JTAT Newsletter!**

各地区の皆様からの投稿をお待ちしています。

Please contact [ykawabe@alamo.edu](mailto:ykawabe@alamo.edu)

---